



ほけんだより 7月号



2024年7月1日
ひいらぎこども園
園長 中田 純子

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。普段からの外遊びで体を鍛え、喉がかわいていなくても水分をこまめに摂取するようにしましょう。

プール前に全身チェックをお願いします

とびひや水いぼ、傷などはありませんか？

ジュクジュクしている場合は、水遊びやプールに入ることができません。

虫刺されやあせも、アトピー、すり傷などを触ったり掻いたりすると、皮膚の表面に複数の細菌が付着して繁殖し、皮膚がただれたり、水ぶくれになったり、かさぶたになったりします。なかでも黄色ブドウ球菌は高温多湿を好むため、夏になると流行します。ジュクジュクしてきたら早めに医療機関を受診しましょう。「水遊び届」の提出をお願いします。

夏に多い感染症

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水ぼうし、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1~4日くらいで解熱します。



溶連菌

のどの痛みを伴い、高熱や頭痛、体のだるさなどの風邪症状が特徴です。発熱後に発疹が全身に広がります。抗生物質を2週間ほど服用すると治療効果が得られます。

手足口病

手の平、足の裏、口の中に水ぼうしができ、発熱することもあります。食事は喉越しのよい物を食べましょう。



流行性角結膜炎

目が腫れ、充血し、普段より多く目やにや涙が出ます。周りの人への感染源となるので、タオルは共有しないようにしましょう。



咽頭結膜熱（プール熱）

プールで感染することもあり、高熱が3~5日くらい続き、喉の痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化のよい物を食べましょう。

発熱・下痢・嘔吐時の登園基準について

厚生労働省の「保育所における感染対策ガイドライン」では、発熱・下痢・嘔吐時の登園基準を定めています。お子さんの健康回復と他のお子さんへの感染の可能性を考えて決められており、健康状態が不十分な状態で登園しますと、病気の回復が遅れ、新たな感染症にかかりやすくなります。

発熱

登園後、37.5度以上の発熱に加え、元気がなく機嫌が悪い、食欲がない、咳や鼻水が出るなどの症状がある場合、保護者の方へご連絡させていただきます。

解熱剤を使用せずに解熱し、24時間経過後の登園をお願いします。

お家での発熱の際も、解熱後24時間経過してからの登園をお願いします。

下痢・嘔吐

下痢や嘔吐があった場合は、保護者の方へご連絡させていただきます。

下痢・嘔吐の症状がなくなってから24時間経過していること。普段と同じような便に戻り、食欲が回復していることを確認してからの登園をお願いします。

食欲低下

食欲がない場合は、健康の回復が不十分と考えられます。全身状態（顔色や機嫌）を確認したうえで、体調不良と判断した場合は、お迎えをお願いする場合があります。

特に決まった登園の基準はありませんが、食欲が回復してからの登園をお願いします。